

神原 理 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員 / 商学部教授)

兵庫県立大学大学院経営学研究科博士課程修了。

著書・論文に主著『ソーシャル・ビジネスのティッピング・ポイント』白桃書房、2011年。「川崎市における自治会構成員を中心とした市民のコミュニティ意識」『社会関係資本論集』第5号、2014年2月など。

大矢根 淳 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員 / 人間科学部教授)

慶応義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程修了。

日本災害復興学会理事 (関東ブロック学術推進委員長)、関東都市学会副会長。

著書・論文に『災害社会学入門』『復興コミュニティ論入門』(いずれも共編著、弘文堂、2007年12月)、「'復元 = 回復力' 概念で読み解くコミュニティ復興の事例研究 --'Resilience'・'Social Capital' 概念をめぐる一考察 (序)」(『Eco Forum』Vol.28 / No.4、2013年7月)など。

社会関係資本研究センター (文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 (平成21年度～25年度))

研究代表: **原田博夫**

テーマ「持続的発展に向けての社会関係資本の多様な構築: 東アジアのコミュニティ、セキュリティ、市民文化の観点から」

3つの研究分野 (コミュニティ、セキュリティ、市民文化) で調査・研究を進め、フィールドワーク (現地視察) や社会意識調査実施、その他関連する複数の学会参加、国際カンファレンス開催などにより、東アジアにおける社会関係資本 (ソーシャル・キャピタル) の実態と東アジア地域の持続的発展の可能性と方向性を提示してきた。

社会関係資本研究センター刊行物

- 『社会関係資本研究論集』第1号～5号 2010年～2014年
- 『社会関係資本研究センター年報』第1号～5号 2010年～2014年
- 『The Senshu Social Capital Review』No.1～No.5 2010年～2014年
- 『新宿区防災アンケート報告書』 2011年、2012年
- 『地域防災活動に関する調査報告書』 2014年
- 『Exploring Social Capital Towards Sustainable Development In East Asia: VIETNAM, SOUTH KOREA, CHINA, TAIWAN, THAILAND』 2014年

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 (平成26年度～平成30年度)

「アジアにおけるソーシャル・ウェルビーイング研究コンソーシアムの構築」

平成26年度国際シンポジウム

ソーシャル・ウェルビーイングと経済発展

Social Well-being and Economic Development

日時 平成26年 **12月6日** (土) 14:00～17:30

会場 専修大学 神田キャンパス 7号館3階731教室



主催

専修大学社会知性開発研究センター
ソーシャル・ウェルビーイング研究センター
Center for Social Well-being Studies

Devoted to the Development of Socio-Intelligence
SENSHU UNIVERSITY

社会知性の開発をめざす
専修大学 社会知性開発研究センター事務課
〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1
TEL: 044-911-1347 FAX: 044-911-1348
E-mail: socio@acc.senshu-u.ac.jp http://www.senshu-u.ac.jp/swb/

プログラム

◆問題提起 14:00～14:15

原田博夫 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表 / 大学院経済学研究科長 / 経済学部教授)

◆基調講演 14:15～15:15

Friedrich Schneider (教授 / オーストリア国 Johannes Kepler University of Linz)
“Well-being and the Shadow Economy”

◆休憩 15:15～15:30

◆研究報告 15:30～16:50 (各20分)

村上俊介 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員 / 経済学部教授)

「東南アジア諸国における社会関係資本」

神原理 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員 / 商学部教授)

「川崎市における市民の地域意識とソーシャル・ウェルビーイング」

大矢根淳 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員 / 人間科学部教授)

「災害からの復元力 (レジリエンス)」

丸茂雄一 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター客員研究員 / 専修大学兼任講師)

「パス図解析から窺えるもの」

◆質疑応答 16:50～17:30

◆閉会 17:30



司会・進行 **金井雅之** (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員 / 人間科学部教授)

◆Opening Remarks 14:00～14:15 **Hiroo Harada**

Chair of the Center for Social Well-being Studies, and Dean of the Graduate School of Economics, Senshu University

◆Keynote Speech 14:15～15:15

Prof. **Friedrich Schneider**, Johannes Kepler University of Linz
“Well-being and Shadow Economy”

◆Break 15:15～15:30

◆Report of Studies 15:30～16:50(20 min. each)

Shunsuke Murakami

“Life Conscience of the People in Indochina Peninsula”

Satoshi Kambara

“Citizen’s Community Conscience and Social Well-being in Kawasaki City”

Jun Oyane

“Resilience from Disaster”

Yuichi Marumo

“Finding from the Path Analysis with Latent Variables by SEM”

◆16:50～17:30 Free Discussion, and Closing Remark by Professor Friedrich Schneider.

MC : Professor **Masayuki Kanai**

プロフィール

Prof. Friedrich Schneider

(Johannes Kepler University of Linz, Austria)



Employment; 10.1997-10.1999 President of the Austrian Economic Association

1.1.2005-31.12.2008 President of the German Economic Association (Verein für Socialpolitik)

Books;

The Shadow Economy (together with Colin C. Williams), London (UK): The Institute of Economic Affairs, 2013.

The Shadow Economy: Theoretical Approaches, Empirical Studies, and Political Implications,

together with Dominik Enste, Cambridge (UK): Cambridge University Press, second edition 2013, first edition 2002.

Handbook on the Shadow Economy, Edward Elgar Publishing Company, Cheltenham, 2011, 700 pages.

The Economics of the Hidden Economy Volume I, The International Library of Critical Writings in Economics, An Elgar Reference Collection, Cheltenham, UK, 2008.

The Economics of the Hidden Economy Volume II, The International Library of Critical Writings in Economics, An Elgar Reference Collection, Cheltenham, UK, 2008.

Readings in Public Choice and Constitutional Political Economy (together with Charles K. Rowley), Springer Publishing Company, 2008.

原田博夫 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表、大学院経済学研究科長、K(川崎)S(専修) ソーシャル・ビジネス・アカデミー長、経済学部教授)

慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了。公共選択学会会長(2010年～2012年)、政治社会学会(ASPOS)理事長(2012年～)。著書・論文に「東日本大震災と財政措置」(『社会関係資本研究論集』第5号、2014年2月)、「幸福感と社会関係資本」(『計画行政』日本計画行政学会37巻2号、2014年5月)、「Public Choice」The International Encyclopedia of Political Communication, Forthcoming 2014. など。

金井雅之 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員、事務局長、人間科学部教授)

東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。

著書・論文に『ソーシャル・キャピタルと格差社会——幸福の計量社会学』(共著、東京大学出版会、2014年6月)、『社会調査の応用——量的調査編:社会調査士E・G科目対応』(共編著、弘文堂、2012年2月)、自治体の家族政策による出生行動の機会格差の是正(『専修人間科学論集 社会学篇』3巻2号、2013年3月)など。

村上俊介 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員 / 経済学部教授)

専修大学大学院経済学研究科単位取得、博士(経済学)(立命館大学)。

著書・論文に『市民社会と協会運動』(2003年、御茶の水書房)、論文「市民社会における規範形成の論理」(『社会関係資本研究論集』第2号、2011年3月) The Civil Society through Self-Consciousness?,"*Economic Bulletin of Senshu University, Vol.43, No.3, March 2009*、「市民社会論の今日的論点」(『経済学論集』第45巻第3号、2011年3月)、編著『市民社会とアソシエーション』(2004年、社会評論社)など。

丸茂雄一 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター客員研究員 / 専修大学兼任講師)

東京大学法学部卒、防衛研究所一般課程修了。日本公益学会理事。

著書・論文に「東日本大震災の影響と新宿区民の防災意識の分析 - 共分散構造分析による因果モデルの構築 - 」(『社会関係資本研究論集』第3号、2012年)、「特別市の防災対策 - 東日本大震災後の活動 - 」(『公益学研究』第12巻第1号、2012年)、「タイ王国における社会関係資本の実態 - アンケート調査を分析して - 」(『専修大学社会科学研究所月報』第608号、2014年)、「中国福建省における社会関係資本の実証的分析」(『専修大学社会科学研究所月報』第614号、2014年)